



## 6月 将来を見据え、「豊かな人間性」と「実践力」を伸ばしていきましょう！ 八千代市立勝田台中学校 校長 丸山 太郎

6月の異称（いしょう）＝「水無月（みなづき）」は広く知られていますが、「夏越月（なごしのつき）」「松風月（まつかぜつき）」「風待月（かぜまちづき）」… 風情のある美しい呼び名があるのも6月です。蒸し暑い日々、風を恋しく想い、ほのかな風にも喜びを感じる古（いにしえ）の人たちの想いを感じる呼び名です。

さて、本校では、様々な活動をとおして、「人間性豊かな実践力のある生徒の育成」をめざしているところですが、社会的・職業的な自立に必要な能力や態度を育てる「キャリア教育」も、その活動の一つです。特に、2学年では、職場体験学習に取り組んでおりましたが、昨今の社会情勢を鑑（かんが）み、代替として、八千代商工会議所の方々や様々な分野でご活躍なさっている社会人の方々を講師としてお招きし、学習に取り組んでいます。

キャリア教育をとおして、家族への感謝の気持ちを持ち、働くことの意義や喜び、将来の進路等について真剣に考えることで、生徒たちは一步一步、豊かな人間性を伸ばし、大きく成長していってくれることと思います。

併せて、ご家庭におきましても、「人生をどのように生きていくのか」という視点から、中学校で学習し生活することの意義は、「たくさんの知識・技術を習得し、様々な人と出会うことや体験活動、読書等をとおして能力を高め、自分の進路を自分で決めていく力を養うことにある」ということを、話題にさせていただきましたらと思います。小学校6年間も含め、9年間の義務教育で培ってきた力を、社会にどのように活かし貢献していくのか考え続けることが重要です。

先日の新聞に、スポーツ小説や警察小説の分野で活躍する小説家 堂場瞬一（どうば しゅんいち）さんの話が掲載されていました。「(要約) 自分の将来の夢を叶え、新聞記者になったけれども、重い病気になり退職せざるを得なかった。夢であった職業を全うできなくなってしまったので、他のことで人生の目標をつくり、小説家となり新人賞を受賞。著書も多数。大成できた。もし、早くに病気が完治していたら、小説を書くこともなく新聞記者生活を送り、定年退職を迎えていたかもしれない。人生は何があるか分からない」。

確かに「人生、何があるか分からない」。しかし、堂場瞬一さんのように、その時々、自分と真剣に向き合い、努力していこうとすることは、悔いのない人生を生きていくために、とても重要なことであると感じました。

17日（木）・18日（金）には、人生の試金石の一つ、期末テストが予定されています。テストへ向けた頑張りも、将来につながる大切な努力です。

学校で、家庭で、自分と真剣に向き合い、真剣に将来の進路について考え、毎日の生活を大切に、努力してほしいと思います。将来を見据え、「豊かな人間性」と「実践力」を伸ばしていきましょう！

ご家庭・地域の皆様に温かく支えていただいていることに深く感謝しつつ、今月も、お子様の成長を、教職員一丸となり全力で支援してまいります。どうぞ、よろしくお願いたします。